

# 日本声楽発声学会 学会通信 第52号

2024年(令和6年)11月

## ◆ 2024年度下半期に向けて

会長 佐々木正利

去る2024年9月15日、16日の両日、宮城県は蔵王町のふるさと文化会館ございんホールにて夏季研修会が催されました。本当に久方ぶりの地方開催でしたが、二日間にわたって充実したプログラムが展開されました。アクセスが良い立地とはいえ、また当日はあいにく天候にも恵まれず、眼前に蔵王連峰を仰ぎ見ることはできませんでした。しかしながら、受講者は多くはなかったものの、豊かな自然の中で大変有意義な学びができたと感謝の声が寄せられました。特に仙台、山形、盛岡といった東北各地からの参加者に、当学会の活動の一端を知っていただけたことは今後の発展につながるものと大変喜ばしく思いました。こうした地方開催の意義は論を俟たないことではありますが、その遂行には多々の困難があるのも自明のこと、理事をはじめとした役員のリダーシップと会員の皆様の支援が不可欠です。学会活動をより充実したものとすべく、一致団結して協力体制を構築していくことが学会員の使命と肝に銘じて、「日本声楽発声学会丸」の舵取りを担う者として一意専心取り組んでいく所存です。皆様、応援方よろしくをお願いします。

さて、時の経つのは早いもので、この夏季研修会をもって私たち役員任期も前半を終え、いよいよ後半に突入です。学会の将来を見据え、コロナ禍の大波を辛抱と見事な舵取りで乗り越えた故川上勝功前会長の意志を引き継いだものの、果たしてその責を全うしてきているか甚だ自信がありません。この不安は、感じる時間の長さは年齢に反比例するという哲学者「ジャネーの法則」に裏打ちされています。例えば10歳の1年は人生の10分の1ですが、60歳の1年は60分の1でしかなく、つまるところ60歳は10歳の子の6倍も早く感じられるというものです。私も70歳の齢を疾うに過ぎ、流れゆく船窓のスピード感についていけない焦燥感を覚えますが、そうであればこそ次世代の方々に活躍いただける下地作りを責務の一つと捉えています。世の中、活動の土俵はIT技術の世界に移行しています。しかし科学技術は諸刃の剣になる危険も孕んでいます。メスは人を生かし、刃物は人を殺す、つまり技術は使い次第であるというのです。説得力のある考え方であり、技術は中立で、功罪は技術を使う人の倫理に左右されることとなります。私は、新技術は不得手ですが、せめて技術を使う人の倫理の「見張り人」たる存在として働きたいと思えます。

学会活動は待ったをかけられません。「イギリス人は歩きながら考える。フランス人は考えた後で走り出す。スペイン人は走ってしまった後で考える」と言ったのは、思想家でもあり元国連スペイン代表を務めた故マダリアーガさんですが、では日本人はと言いますと、「日本人は他の人が歩いているか確認してから歩き出す」、もしくは「日本人は他の人が歩いて無事うまくいったのを見届けた後、一斉に走り出す」となりまじょうか。走り出すとすごい(一極集中)なのですが、他の人が歩いたことのない道は迷いに迷うのです。私は、まだ見えぬ景色を不安なく航海できるように多くの船団を導く羅針盤たる存在として、会員の皆様の学会活動を応援していきます。次なる寄港地に安全に辿り着けるように。

## ■■■ 泉 恵得先生、川上 勝功先生を偲んで ■■■

### ■ 泉 恵得先生

2013～2019年、当学会理事を務める

[主な研究発表等]

2014年 研究論文：児童の頭声発声と胸声発声との比較による音響学的・生理学的一考察

(共著 眞田真里絵・城本 修・眞田友明)

2014年 研究発表：ベルカントで歌う琉球民謡の演奏／琉球音楽への一考察

2018年 研究発表：音楽学的演奏学

2000年 研究発表：琉球古謡の多層性への一考察

### ● 泉 恵得先生を偲んで

佐々木正利（会長）

泉先生が突然帰らぬ人となられたのは、本年（2024年）2月13日、出張先の大分県湯布院市でのことでした。急性心不全とのことでさぞかし無念の思いだったに違いありません。湯布院市といえば今年90歳になられる我が恩師、小林道夫先生が住んでおられるところ。確かめたわけではありませんが、77歳になられる泉先生は小林先生のところを訪ねられていたのではないかと推察します。それと申しますのも、泉先生は65歳で琉球大学を定年退職なされた後もなお、ドイツ・リートの研究・演奏に没頭され、今度小林先生と『冬の旅』の合わせをするんだ、と目を輝かせておられたからです。小林先生といえばエルンスト・ヘフリガーやディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウといったドイツ・リートの世界的名歌手の伴奏をなされた方。私などは先生の伴奏で歌っている時は（決していいことではありませんが）、聴いてくださる聴衆の皆さんよりも、先生にどう思われているかが気になってしょうがないといった体たらくでしたから、泉先生の生き生きとした表情を見て本当に羨ましく思ったものです。同時に、泉先生はこうも仰ってくださいました。僕と佐々木君は小林先生の素晴らしい薫陶を受けているから兄弟弟子だよ、と。こんな素敵な言葉をかけてくださる大先輩の泉先生は、周囲に気を遣わず、常に謙虚な意欲を携え、曲がったことが大嫌いな強い信念を持ち、日陰の石ころの下に潜む小虫にすら愛情を注がれるナイスガイでした。

先生と私は声楽家といった関係の他に国立大学の教育学部の教員としてのお付き合いもありました。特に、かつて私は、日本教育大学協会全国音楽部門大学部会の副会長を8年も務め（ちなみに時期は重なってはいませんが、当学会副会長の齋藤祐先生は会長の要職にあられた方です）、地方の国立大学教育学部の大学院設置を強く文部省（現文部科学省）に働きかけ、何とか実現に漕ぎ着けた仕掛け人の一人でしたが、設置には予算が絡み大蔵省（現財務省）からの圧力は相当のものがあつた、何度も霞ヶ関行脚を行い身も心もクタクタになったものです。そんな私たちを、泉先生はこう仰って励ましてくださいました。「医学部は6年の修養年限だが教育学部も6年にすべきではないか。なぜなら人間の体を司る人材を輩出するのが医学部なら、心を司る人材を輩出するのは教育学部である。学部を6年にするのが難しいなら、より専門的な学びができる大学院の設置は自明のことだよ」と。さらに、当時の文部省は、地方の国立大学教育学部音楽科に個人レッスンは認めていませんでした。それを認めると教員数が必要になり予算確保が課題となるからです。結局ここでもハードルとして立ちちはだかるのは財源ですが、泉先生は「沈志黙考に終わっちゃいけない、一気呵成には行かなくとも熟慮断行すべきだ」と励ましてくださり、残念ながら予算化は実現しなかったものの、文部省は「個人レッスンが行われている実情に鑑み」の文言とともに、カリキュラムの改編はそれぞれの大学の実情に合わせることを認めてくれたのでした。

斯様に泉先生は、冷静な気配りとともに当学会の舵取りにも眼光紙背に徹す洞察力を発揮され、理事会のご意見番的存在として私たちを勇気づけ、また導いてくださいました。個人的にも、再来年に目論むマタイ受難曲沖縄初演の力になっていただきたいと念願していましたので、残念でなりません。先生の魂の天国での安らかな眠りを祈念しつつ、シューベルトとリート談義なされておられる先生を睨に思い浮かべています。

## ● 泉 恵得先生を偲んで

齊藤 祐（副会長）

声楽家・琉球大学名誉教授 泉恵得先生は、東京藝術大学音楽学部声楽科・大学院で故畑中良輔先生のもとで学ばれ、修了後西ドイツとイタリアのオペラハウス等でご活躍されました。帰国後は琉球大学に赴任されて、ご退職なされた 2013 年まで勤めあげられました。

先生はお話好きな明るいお人柄で、鹿児島大学主催の全九州大学音楽学会の懇親会では、ご自身のこれまでの研究の経緯と成果を朗らかに語っておられました。また別の研究発表会ではテノールであられるご自身が異なる声種の指導方法に関する講演をされた際、ソプラノとバスのイタリアオペラのアリアを実証歌唱され、広い音域を豊かで艶のある歌声で披露されて会場を沸かせてくださいました。また、ドイツ・リートにも造詣が深く先生のライフワークとも言える「冬の旅」は、大学在任中から晩年まで九州・沖縄の各地で毎年演奏されたと伺っております。ある学会でのこと、先生はゆっくりと近づいて来られると『ヴィーンでエリック・ヴェルバ先生と「冬の旅」を合わせてきましたよ、齊藤さん聴いてください。』とその CD を満面の笑みで手渡してくださいました。このような様々な先生のお姿が思い出され、人の命には限りがあることへの悔しさを感じております。

先生は本学会に於いて 2014 年～2019 年まで 2 期 6 年間に渡り理事を務められ、退任後も学会沖縄支部解散問題の解決のために奔走される等、学会の発展のためご尽力されました。その他受賞等のご業績は枚挙に暇がないのですが、晩年は沖縄や九州各地に於いて精力的に演奏会にご出演され、そのご活動を以って私共に範をお示しくくださいました。最後まで文化発展にご尽力されました先生でしたが、令和 6 年 2 月 13 日大分県湯布院町で演奏会の準備中に 76 歳で客死されました。今までの全てに感謝申し上げ、悲しみと共に先生のご冥福をお祈り申し上げます。先生、誠に有難うございました。



■ 川上勝功先生 1992 年より当学会理事、事務局長、副会長を務めたのち、2019～2022 年会長

[主な研究発表等]

1984 年 研究発表：私の声の変遷

1991 年 研究発表：おかあさんコーラス「喉声からの脱出」

2004 年 研究発表：喘息治療におけるステロイド吸引による発声障害

—完治に至るまでの 14 ヶ月間の経過報告とステロイドの使用に対する警告—

2012 年 夏季研修会：教会音楽の変遷「カトリック教会を中心に発展したモテトの変遷と特質」

2016 年 研究発表：発声時に於ける咽頭の位置関係（竹田数章氏との共同研究）

2023 年 研究発表：発声の基本は It is easy!!

## ● 川上勝功先生を偲んで

佐々木正利（会長）

川上先生が学会に尽くして来られた功績と年月は、それこそ計り知れないものがあります。私も先生の元で何年も学会運営に携わらせてまいりましたが、数えられないほどの恩恵、ご指導をいただきました。特に、岩手に住んでおります私にとっては、絶対に忘れない大災害、すなわち東日本大震災によって、叔父を津波で亡くした自分にとってのショックは筆舌に尽くし難く、それからの復旧、復活にこれ以上ないほどのエネルギーと心労を重ねてきたことは忘れようがありません。

ところがです。もう絶対にこれほど以上のパンデミックには襲われまいと思っていた私たちに、何とコロナ「COVID-19」という病名

の「新型コロナウイルス感染症」が侵食し、世界中がパニックに陥りました。その中でも、呼吸をエネルギーとして発信する私たち声楽分野の輩に対する世間の手厳しい目は、声楽関係者には活動終焉の引導を渡されるが如くの途轍もない仕打ちとなりました。そのような渦中に置かれた私たちでしたが、川上先生が温厚な中にも揺るぎない愛情と信念を持って私たちを勇気付け励ましくださり、何とか持ち堪えて今に至ることができています。先生の導きと粘り強い叱咤は、勇往邁進せよと、ともすれば弱気に落ち込む我々を奮い立たせてくださいました。今、学会があるのも、ひとえに川上先生の導きのゆえである、と声を大にして申し上げたいと思います。

前述のように、先生と私は 30 年以上にわたって学会の中核にいらしていただき、歴代の理事長（現会長）の元で共に働かせていただきました。特に先生は、長年にわたって事務局長を務められ、学会の酸いも甘いも噛み分ける術を持っておられ、多くの場面で勉強させていただきました。そんな先生が、いよいよ学会トップの（遅きに失したとは言いませんが、ようやくのことで）会長になられた時、私に最初に仰られた言葉があります。役職に就いたばかりの自分が言うのは何ですが、と銘打って、時期のリーダーポストは佐々木君しかいないと思っている、と仰って、次のことをお話しくださったのです。

それは、東洋医学の祖と言われる古代中国・春秋戦国時代の伝説的な医者である扁鵲（へんじやく）のことでした。先生はこう話されたのです。そのまま記します。扁鵲は三人兄弟の末っ子で長兄も次兄も医者だったのですが、三人の中で一番有名なのは自分であるという理由を聞かれてこう答えたと言うのです。自分は「病気が重くなってから治します。そのような中で鍼や薬や手術で治します。そのため私は目立ちすぎいと思われるのです」と。しかし次兄は「患者が病気に罹り始めた時に治してしまいます。病状も少なく、患者も苦しくありません。そのため次兄は、軽い病気を治すのが得意とされています」と。さらに長兄は「症状が出る前に、患者本人も病気だと気づかないうちに治してしまいます。そのため彼は中々人からは認められず、でもうちの中では一番尊敬されています」と。そして川上先生曰く、ここでも分かるように、本当にすごいのは大病を患わせないドクターなんだよ、と。注意深く患者さんの様子や話の中から起こりうる疾患を予測して、生活改善に繋がられたならいいよね、と。でも続けて曰く。それは、おそらく患者さんにも、患者さんの家族にも気づくほどの変化がないわけで、畢竟、あまり感謝されないのでしょうなあ……。と仰って、自分は先が長くないので、後を託していける佐々木君に、このことをしかと踏まえて就いてもらいたいのだ、と話されたのです。まだ、会長に就任した時の時に、こうしたお話をくださった川上先生に、その時、私は万難を排してお付き従い、力にならなければと強く思ったものでした。

Gottes Zeit ist allerbeste Zeit! 神様のご計画は深順で計り知れません。先生がクリスチャン（カトリック信者）であったことはご葬儀の時まで知りませんでした。同じ信仰を持つものとして、先生の意志をしっかり受け継いでいかねばならないと強く思っています。自らを低くおき、他のために尽くす。そうした精神をしっかり和果たしていきたいと誓います。先生、安らかに。そして後輩である我々をしっかり見守ってください。

## ● 川上勝功先生追悼文

竹田数章(理事)

川上先生との出会いは、私が日本声楽発声学会に入会してからのことでした。先生は声楽発声研究において、いつも科学的・医学的な面からのアプローチが必要だと言われていました。

微力ながら、先生に依頼されて医学面、音声生理、解剖学的な面から「発声のしくみ」についてお手伝いをさせていただいた思い出が脳裏に浮かんでまいります。

また発声は「It is easy.」なものだとも仰せでした。淡野弓子先生主催の合唱曲演奏会において、ソリストで歌われた先生の声は、まさにそのことを体現されたすごい声であったことが、強く印象に残っております。「It is easy.」という言葉の解釈はいろいろあると思います。その一つとして、「自然な美しく響く声」ということを、川上先生は講演会でもよく話しておられたと記憶しています。そのことに、音声医学的なことから、もっと貢献しなければと思っていた矢先、あまりにも急にお亡くなりになられ言葉もありませんでした。川上先生の遺志をついで、さらに声楽発声に役立つような音声研究を進展させたいと存じます。先生のご冥福を深くお祈り申し上げます。

## ● 追悼 川上勝功先生

淡野弓子（相談役）

川上先生に初めてお目に掛かったのは 1969 年 3 月でした。シュッツ合唱団の公演でシュッツの《マタイ受難曲》を演奏した際、クルト・エキルト氏が福音史家を朗唱され、川上先生にはカヤパ役をお願いしました。先生はまだ藝大音楽科 3 年生でした。以来お亡くなりになるまでの 55 年間、私どものコンサートをそれは熱心にお聴きくださり、60 年近くを過ごされた日本声楽発声学会では様々な場面で深いお支えをいただきました。

学会創立 50 周年記念演奏会「歌の集い」[9]（2014/9/15）における柴田南雄作曲《宇宙について》では、「創造者の発した第一声」をお願いしたところご快諾いただき、三鷹市芸術文化センター「風のホール」のバルコニーから先生の堂々とした品格のある声がホールを満たしました。その響きを忘れることはないでしょう。

発声に関しては、間違った発声のもたらす危険と不幸を憂い、「本物」を目指すという強い信念のもと、胸声の響きが頭声まで失われず、低声にも頭声の響きが聴こえるようにという王道をアカデミックな場で指導され、また各所で、口頭で丁寧に伝えてこられました。ベルヌーイの法則による音声の発現を重要視され、合わせて呼吸法の大切さを説かれました。2024 年 7 月 18 日、横浜みなとみらい小ホールで開催された〈追悼コンサート〉では多くの教え子の方々が気持ちの良い声で先生を偲ばれ、そのレベルの高さに驚嘆した次第です。

川上先生は「素晴らしい声」、「寛く暖かい人格」、正しくない発声と間違った指導者の責任を喚起し、警告する「勇気」をお持ちの方でした。これらは天が先生に託されたことと思います。

天国に戻られた川上先生、永遠の安息を祈り上げます。

## ● 川上勝功先生のご功績と人柄

永井和子（顧問）

声楽を志した殆どの歌手は、先ず歌うには声に技術が必要であることに目覚め、声の出し方の模索が始まります。川上先生にもそんな若かりし日がおありだったので、発声談義になりますと目が輝き、お顔の表情が明るく生き生きとされ、深いご研究の過程が感じられました。

声楽のレッスンは、発声から歌唱表現に至るまで一人の先生に指導を受けるのが習わしですが、川上先生は運よく学生時代に早々と、ドイツで学ばれた発声における科学的研究者、木下武久先生（1986～1988 当学会理事長）という発声のみを指導する先生に出会われ、これまでにない発声に関する理論と実践のトレーニングを受けられました。目から鱗であったと回顧なさっておられました。

また発声学会では、発声における耳鼻咽喉の大権威者、米山文明先生（2001～2012 当学会理事長）の長年に亘る理事長時代に、清濁をふるいにかけて正しい論議を提供し、高度な発声に関する健全な運営の殿（しんがり）を務め、理事長の片腕となって事務局長を務められました。聞きますところ、米山先生の診察が始まる前の早朝に、毎日「今日一日」の事務の進め方の指示を仰がれる電話をされるなど、裏からの多大なバックアップをされました。このことは人の目にはつかない努力ですが、今日の当学会の揺るがぬ地位を確立された裏の立役者を感じます。

特筆すべきは、理事長就任中、不幸にも世界中がコロナで埋め尽くされ、学会としての実施活動が何も出来ない中で、理事の先生方とアイデアを出し合われたので、学会員へ研究課題を紙面で提供、学会の存在を示される努力は、川上先生の温厚で慌てず騒がずのご性格があつてこそ、と感じます。

心からのご冥福をお祈り申し上げます。

## ◆ 第114回例会・第60回総会終了

2024年5月26日（日）、東京藝術大学にて「第114回例会・第60回総会」が開かれました。

### ■研究発表

1. 林いのり（座長：小森輝彦）  
歌劇《シモン・ボッカネグラ》における「朗唱風の歌」と、  
19世紀後半のイタリアにおける「演劇的な抑揚」の関連性
2. 西浦美佐子・遠藤志葉・増田貴寛（座長：三枝英人）  
頭蓋骨の解剖学的観点による声楽のための発声方法の探求～頭部3DCT画像を用いて～

### ■特別講演

高橋 純（大阪芸術大学講師）「声楽発声と科学」

### ■現役声楽家の演奏とお話

小原啓楼（テノール・愛知県立芸術大学教授）

例会参加者は、正会員・臨時会員合わせて72名。2023年6月の例会に比べ、学生臨時会員の参加が増えました。年齢層の広がりは、そのまま学会の未来につながります。今後も充実した企画運営にご期待ください。

夏季研修会に続き、例会でも参加者アンケートを実施しました。プログラム本体にアンケート用QRコードを掲載できず、別紙挟み込みとなったため、回答者は9名と少なめでした。結果は以下の通りです。

### ●日程について

日本歌曲コンクール本選と重ならないようにしてほしい／遠方からも日帰り参加できてよかった

### ●特別講演「声楽発声と科学」について

科学的な視点、最新の機器を用いた研究は参考になり、またこれらを念頭に置いた若い指導者が増えていることに励まされる

### ●「現役声楽家の演奏とお話」について

歌もお話もっと聴きたかった／シリーズ化してほしい／演奏予定曲を全部聴きたかった／歌唱時の身体の使い方の説明もありわかりやすかった

### ●その他

研究発表への質問として、攻撃的とも感じる発言があり不快であった（3名の方から同様のご意見をいただきました）／興味深い内容で大変勉強になった

ご協力、ありがとうございました。皆さまからのご意見を今後の活動に活かしてまいります。なお、発表・講演詳細は、声楽発声研究 No.15 に掲載されます。

第60回総会の審議結果等は、皆様に「総会議事録」をお送りしておりますので、ご確認ください。

## 2024 年夏季研修会 in 蔵王

2024 年 9 月 15 日(日)～16 日(月・祝)、宮城県蔵王町にて夏季研修会が開催されました。晴れていれば蔵王の山々が望める…はずでしたが、この 2 日間はあいにくの天候。それでも、残暑厳しい首都圏を離れての研修会に身も心もリフレッシュしました。参加者は、ABC 講座それぞれ約 40 名、D 講座「歌の集い」は約 70 名と少なめでしたが、多くの学びを得ることができたことでしょう。



A 講座は、特別講師として森幹男氏をお迎えし、「口笛原理の解明による誰でもプロ並みに口笛を吹ける最適口笛吹鳴法～歌声との対比を用いて～」と題する特別講演です。昨年 11 月の例会に続いて、口笛と歌声に関する大変興味深いお話でした。口唇部の形状と舌の動きを工夫すれば、口笛を吹けない人、音は出るが曲を吹くまでに至らない人も、美しい音色と 3 オクターブの音域を得ることができる、声楽科出身の口笛奏者はそこに音楽性が加わり、コンクールでも上位に入る「最強」の奏者になれるそうです。さらに視覚情報によって母音の聞こえ方に変化があるかどうか、会場の参加者にアンケート調査が行われました。11 月には開発中だった「歌声フォルマントと母音の明瞭性を示すアプリ」(\*)の紹介もあり、最後には梅村理事の伴奏による口笛演奏で「朧月夜～浜辺の歌～赤とんぼ～冬景色」のメドレーが披露されました。声楽家にはあまり縁のないボーカルエフェクターの紹介もあり、客席の視線は釘づけ、大きな拍手で研修会最初の講座を終えました。(※「森幹男研究室」で検索、「公開アプリケーション」から「歌声可視化ソフト」へ)



休憩後の B 講座は、作曲家シリーズⅫとして木下牧子氏の「自作を語る」。2 名のモデル歌手とモデル合唱団の演奏、それに対するコメント、作曲において大切にされていること、演奏者からの質問への真摯なお答えなど、音楽への、また自作への愛を感じる、あっという間の 2 時間でした。日本人だから日本語が自然に歌えるわけではない、同じメロディや言葉が繰り返される時にはどのように変化させるかを考える必要がある、楽譜に書いてあることはヒントであり演奏する際にはそこから推理していかなければならない、という演奏者への言葉、また、好きな詩、音楽が浮かんでくる詩を選び音楽がすっきりはまるまで 1 小節に 1 週間悩むこともあるほど推敲を重ねている、ハーモニーは静謐なものと考えている、など詩と音楽の関係を築き上げ作品として昇華していく過程のお話には、木下作品の奥深さ、人気の高さの秘密を垣間見た思いです。



第1日の2つの講座を終え、夜は会場をベネシアンホテル白石蔵王に移しての懇親会が開かれました。思えば、コロナ禍を挟んでこうした飲食を伴う場を持つことも久々のことです。お二人の先生にもご参加いただき、竹田数章理事による能管演奏や森幹男講師による口笛演奏などの余興や、会員からの生の声も聞くことができた貴重なひとときとなりました。



第2日午前は、研修室にて音声生理学講座「発声時の声帯運動と声帯麻痺の治療」でした。今回講師としてお招きしたのは、東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科教授の香取幸夫氏です。話すこと・歌うことは、人とのコミュニケーション以外に呼吸や摂食嚥下にも重要である、との前置き続く「発声と声帯運動」についての説明は、写真や動画を交えて非常にわかりやすく、日常の発声時にもとすれば忘れがちな「発声のしくみ」を改めて振り返る機会となったことでしょう。また、嚙

声（かすれ声）を生じる疾患、特に反回神経麻痺の症状と治療に関しては、治療方針決定から手術の様子までを詳細に話され、私たちが声のトラブルに遭遇した際にも参考となるお話でした。手術後、客観的には効果が見られても、自覚的評価が低い場合があるとのことですが、麻痺そのものは回復しなくても、代償的な治療（音声治療、手術）が可能であり「声は甦ります」という言葉が大変心強く感じられた講演でした。



夏季研修会最後のプログラムは、D講座「歌の集い」です。6名の歌い手が、ドイツ歌曲、日本歌曲、アリアなど思い思いの選曲で日頃の研鑽の成果を披露、また演奏後には、恒例となった齊藤副会長のインタビューもあり、会場は温かい拍手に包まれました。特に、今回は宮城、山形から多くご参加いただき、関東近県に偏らず全国各地の会員にも演奏の機会を提供することの意義を感じる演奏会となりました。



蔵王町開催にあたり、現地での調整と集客に奔走してくださった我妻健太会員に、この場を借りて感謝申し上げます。

なお、各講座の詳細は5月発行予定の「声楽発声研究 No.15」に掲載予定です。

(広報部・入川)





## ○ 夏季研修会アンケート結果

当日配布プログラムのアンケート用 QR コードからは、次のようなご意見をいただきました。

### 【プログラム構成について】

遠路、参加してよかったと思う充実した内容だった。ややマンネリ感の出た(個人の感想)ところに、新たな展開を期待できたのもよかった。次回も、おなじようなことの繰り返しに見えて、実は進化している、という内容になることを期待している／たっぷりでとても充実していた

### 【日程について】

かつての定番の日程よりも参加しやすいという人がどれくらいいるか気になる、特に合唱コンクールの日程との兼ね合いで／9月は良かった

### 【会場について】

落ち着いた雰囲気の中で、研修できてよかった。また、観光も兼ねることができるというのも、地方開催の魅力でもあるので、その点でも良い選定であったと思う／居住地から遠かった事と、公共交通機関が不便だった／なかなか行く機会のない、響きの良いホール、とても楽しめた／東京よりも良かった。夜の親睦会も持てて沢山の方々と交流が出来、又来年も蔵王でやって欲しい

### 【各講座について】

#### ● A 講座

一見、声楽発声とは関係ないようでベルヌーイの定理等理論に裏付けられていた。武満徹の混声合唱曲「小さな空」に口笛のパートがあるので、そういう面でも意義を見出せた。参加者が口笛を吹いてみる時間が5分でもいいからあるとよかった／口笛の演奏素晴らしい

#### ● B 講座

木下先生の解説やご指導のお言葉が、演奏や質問よりも、より長くなるような時間設定ができればなおよかったと思う。あらかじめ木下先生にレッスンを受けた歌手による演奏と、その経過の説明、みたいな場面があってもよかったと思う(かつてあったと思う)。一曲、来場者で木下作品を合唱し、ご指導いただける場面もあればなおよかった／表現についてなど、もっと木下先生のお話が聞きたかった／作曲家の本音が聞けてとても良かった／作品が好きなので、ゲストとして良かった

#### ● C 講座

興味深い内容だが少し難しい面もある中で、わかりやすくテンポ感よく進み、なんとなくわかっていたつもりのことが整理できてよかった／丁寧に質問に答えてくださった

#### ● D 講座「歌の集い」

地元の出演者の熱演、関係者の応援等、地方開催の良さが出ていた。会員の日頃の研究の成果の発表であり、出来不出来の評論、批評は一切しないという「歌の集い」発足の初心は、アナウンスなりプログラムなりで伝えると、聴き手の反応もポジティブになるのではないかと／東北人も頑張っているのだなあと励みになる

### 【今後の学会運営、講演などについて】

これまでの学会の方向性、成果を尊重したうえでの講演、発表が行われることを願う。今後も地方開催を含め、学会のサポートのもとでのイベント開催、交流等に期待したい／時代にあった活気のあるものになった。今年の夏の学会は今までで最高に楽しかった

ご回答ありがとうございました。

## ◆ 第115回例会のお知らせ

今回は特別講演に代わり竹田理事を座長とするパネルディスカッション「歌唱における共鳴について」を企画しました。音声生理学の観点から、また声楽家の共鳴の実際、加えて参加者も含めた共鳴のエクササイズも予定しています。「現役声楽家の演奏とお話」には、オペラやコンサートでご活躍のソプラノ、森谷真理氏をお迎えします。多くのご参加をお待ちしております。

～ ～ ～ ～ ～

【日時】2024年11月24日(日) 9:55～16:30

【会場】東京藝術大学 大講義室 5-109 および第6ホール

【プログラム】

### A 研究発表

10:00～ 声道形態調節による音声の聴取実験結果(2023年秋例会)の分析：  
声区指導の現状を考える

発表者：斉田晴仁

10:35～ 声帯振動パターンと喉頭位置を調整した際のMRIによる喉頭軟骨の計測

発表者：長塚 全

11:10～ ヒトの舌尖の特殊性と運動制御について考える：舌尖の比較解剖学的研究から

発表者：三枝英人

### B パネルディスカッション

13:00～15:00 歌唱における共鳴について

座長：竹田数章

パネリスト：上杉清仁、近藤直子、三縄みどり、吉田浩之

### C 現役声楽家の演奏とお話

15:20～16:20 森谷真理(ソプラノ・名古屋音楽大学准教授・東京藝術大学講師)

## ◆ 第116回例会・研究発表募集のお知らせ

2025年5月25日(日)、第116回例会を開催予定です。(日程や会場が変更になる場合もありますので、ホームページでご確認ください)

【研究発表募集】

○第116回例会にて発表をご希望の方は11月末日までに発表題目と氏名を明記した発表概要(1000～1200字)を事務局までご提出ください。「研究発表規定」記載のとおり、例会における口頭発表には研究発表と実践発表があり、「声楽発声および声楽・その指導に関するもの」となっています。日頃の演奏・指導を通じての会員の皆さまのご応募をお待ちしております。

○第117回例会(2025/11)の研究発表締切は2025年5月末日です。

## ◆ 2025年夏季研修会のお知らせ

2025年夏季研修会は、8月25日(月)、26日(火)に日本福音ルーテル教会(東京・新大久保)にて開催予定です。

## ◆ 新入会員紹介

正会員としてお迎えした方のうち8名から、自己紹介のご投稿をいただきましたのでご紹介します。

(50音順・敬称略・①略歴②抱負など)

### ○在原 泉 (ありはら いずみ)



①弘前大学を経て岩手大学大学院修了。現在、演奏活動のほか、岩手大学、盛岡大学短期大学部非常勤講師。

②声楽家として活躍されている方々の演奏や研究発表で、その音楽や研究内容に私自身の演奏に対する意欲を掻き立てられています。また、身体や喉の仕組みについて最新の専門的な発表が多いので、演奏者と指導者の両立場において、あらゆる側面から必要な情報や知識が得られる本学会の活動をこれからも楽しみにしております。

### ○小野凜香 (おの りんか)



①山形大学地域教育文化学部地域教育文化学科文化創生コース卒業。現在、山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化創造専攻1年次在籍。第2回国際声楽コンクール東京本選入選。東京国際芸術協会主催のコンクール入賞者によるウィーン演奏会ツアー参加。藤野恵美子、藤野祐一、深瀬廉、ヴィクトリア・ルキアネツの各氏に師事。

②声楽の勉強を始めてからまだ日は浅いですが、このような場で学べることに感謝し、日々精進したいと思います。

### ○狩野麻実 (かのう あさみ)



①島根大学教育学部生涯学習課程音楽芸術コース卒業。同大学大学院修了。現在、島根大学教育学部特任講師。

②様々な方向からのアプローチに触れ、声楽発声について更に広く、そして深く考える機会にしていきたいです。今後の指導に繋がる自分の歌う力を高めていけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

### ○佐々木寿子 (ささき ひさこ)



①山形県立北高等学校音楽科卒業、国立音楽大学大学院音楽研究科フランス歌曲修了。現在、音楽教室 joujou〜ジュジュ〜主宰。羽陽学園短期大学非常勤講師。

②この度、末席に加えさせていただくこととなりました。たくさんの方々との出逢いに感謝しながら、自身の学びを今後も深めていきたいと思っております。何卒よろしく願いいたします。

### ○鈴木 集(すずき つどい)



①山形大学、同大学院修了。藤原歌劇団準団員。山響アマデウススコアコンサートマスター。山形オペラ協会会員。アポロ音楽院講師。女声合唱団ささゆり、上山混声合唱団フロイデ、山形大学混声合唱団各指揮。Cantores Polaris メンバー。

②山形県鶴岡市出身、同山辺町在住のバリトン鈴木集です。当学会での卓越した研究発表や、公開レッスンはじめやり甲斐を感じる講座を楽しみにしております。

### ○土田拓志(つちだ たくし)



①山形大学地域教育文化学部音楽芸術コース、同大学院地域教育文化研究科文化創生コース音楽芸術分野修了。

②この度日本発声学会に入会いたしました、土田拓志です。現在は山形県の私立高校教員の傍ら声楽の探究をしております。より良い発声を目指せるようにこの学会の中で精進いたします。何卒よろしくお祈りいたします。

### ○松浦 恵(まつうら めぐみ)



①山形北高等学校音楽科、山形大学地域教育文化学部音楽芸術コース卒業、東京藝術大学大学院音楽研究科声楽専攻(独唱)修了。現在、山形北高等学校音楽科、山形大学地域教育文化学部各非常勤講師。

②9月の夏季研修では、刺激的で多角的な学びと出会いが溢れていました。自身の演奏の研鑽、そして指導においても最も大切な基盤である「発声」を、多様な側面から学ばせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお祈りいたします。

### ○渡邊寛智(わたなべ ひろのり)



①国立音楽大学声楽科卒業、同大学院音楽研究科声楽専攻修了。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程修了。修了と同時に博士号(音楽)を取得。現在、島根県立大学短期大学部教授。

②今年度より入会いたしました渡邊と申します。日頃から歌の演奏活動や歌唱指導をしておりますが、発声法や指導法をより深く学びたいと思い入会いたしました。本会で多くのことを学べることを楽しみにしております。どうぞよろしくお祈りいたします。

日本声楽発声学会へようこそ！ 今後のご活躍をお祈りしております

当学会では、随時新入会員を募集しています。正会員1名の紹介とともに入会申込書をご提出いただき、理事会で承認後、正会員として登録されます。学会の活動に興味を持っている方が身近にいらっしゃいましたら、ぜひお声かけください。詳細は事務局までお問い合わせください。

日本声楽発声学会事務局 QR コード→



## ///理事会動静///

今期より就任した推薦理事は、学会のこれまでの運営方針を学び、より一層学会の活動が発展することを願って精進していく所存です。今号では、任期を約半分終えた今期推薦理事からのコメントを写真入りで紹介いたします。(50音順)

### ● 入川めぐみ



広報部および総務部に配属となり、学会通信編集、ホームページリニューアル、例会や夏季研修会のアンケート作成・集約といった、会員の皆さまに最も近い仕事に携わっています。残る任期も、学会運営に関心を持っていただき、さらに開かれた学会となるよう邁進してまいります。

### ● 上杉清仁

佐々木会長からの推薦を受けて今期から理事を務めさせていただいておりますカウンターテナーの上杉です。若輩ではございますが学会の発展のために尽力したいと思います。今後、より多くの方々の入会を目指し、特に現役世代に広く宣伝するため、Instagram や Facebook 等を活用し、学会の広報活動を強化したいと思います。そして、意義深い研究発表の内容を教育現場に活用していけるよう努力したいと思います。よろしく願いいたします。



### ● 梅村憲子



例会や研修会で学べることの豊富さに日々感謝と驚きを感じ、学会で得た知識を自分なりに深め、応用していく面白さにはまっています。理事として学会運営のお手伝いをするのは、私にとっては目には見えない、触ることもできない発声というものの不思議を解き明かすことの、難しさと楽しさを再認識することでした。ひとりでも多くの声に携わる方に学会で学べることの価値を知ってもらうため、微力ながら努力を続けてまいります。

## ● 佐橋美起

多くの舞台に立ってきましたが、歌う上で、また教える上で具体的に更に学ぶ機会ができたことは大変有り難いです。教える時は感覚的なことを中心に教えていますが、声帯や筋肉の仕組みを先生方に質問しながら深めていけることで、更なる研鑽を積んでいきたいと思っております。そして、歌い手として若い方々のお役に立てるように発声学会でも活動していけたらと思っています。



## ● 吉田浩之



新理事に就任以来、あっという間の一年です。日々の発声の訓練を重ねる上で、他人に理解してもらえるように言語化する難しさを痛感しており、これからの課題として研究に励みたいと思っております。当学会のことに関しては未だに右も左も分からないような状態で、まだしばらくは若葉マークが取れない感じです。これからも佐々木会長はじめ、理事の先生方に必死についてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

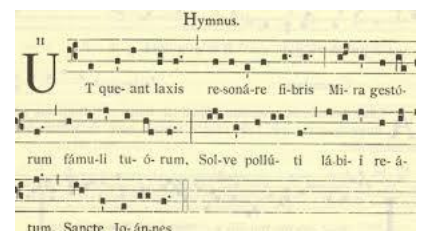
## ● 渡辺修身

今年9月の夏季研修会では、木下牧子氏の講座にて山響アマデウススコアと共に参加、貴重な経験もさせていただきました。一学会員の時には思いもなかった、例会や夏季研修会の研究発表やプログラムの準備の大変さを実感し、これまで理事として学会運営に携わってこられた先生方のご苦勞はいかばかりかと、改めて、心から感謝の念を強くいたしました。今後も微力ながら理事としての務めを果たしてまいります。



残る1年半、どうぞよろしく申し上げます

推薦理事一同



## ● 理事会記録（2024年4月～2024年9月）

理事会は、会長の招集により適宜開かれ、事業や刊行物の進捗状況確認、新たな提案の審議、新入会員の承認などを行っています。

今年度前期は、例会・夏季研修会の準備と、各部の担当案件進捗状況報告などが行われました。

	日時	場所および出席理事	主な議題
第10回	2024年4月15日(月) 19:00～21:00	Zoom 佐々木、池田、齊藤、森井、 竹田、入川、梅村、小森、 三枝、佐橋、鈴木、田中、 西浦、吉田、渡辺	第114回例会・第60回総会について／夏季研修会について／ホームページリニューアルについて／新入会員承認について 他
第11回	2024年5月13日(月) 19:00～21:00	Zoom 池田、齊藤、森井、竹田、 入川、上杉、梅村、岡崎、三 枝、鈴木、田中、西浦、渡辺	第114回例会・第60回総会について／夏季研修会について／ホームページリニューアルについて／新入会員承認について 他
第1回	2024年5月26日(日) 18:00～20:00	東京文化会館第1会議室 佐々木、池田、齊藤、森井、 竹田、入川、梅村、小森、 三枝、鈴木、田中、西浦、 渡辺	第114回例会・第60回総会の反省／夏季研修会について／ホームページリニューアルについて／会員名簿について／今後の展望について／新入会員承認について 他
第2回	2024年6月24日(月) 19:00～21:00	Zoom 佐々木、池田、齊藤、森井、 竹田、入川、上杉、梅村、 岡崎、小森、鈴木、田中、 西浦	外部団体からの転載、収録許可依頼について／夏季研修会について／第115回例会について／各部より報告／新入会員承認について 他
第3回	2024年7月30日(火)～ 8月12日(月)	メーリングリスト審議	ホームページ掲載内容について／新入会員承認について
第4回	2024年8月26日(月) 19:00～21:00	Zoom 佐々木、齊藤、森井、竹田、 入川、梅村、三枝、鈴木、 田中、西浦、渡辺	夏季研修会について／新ホームページについて／第115回例会について／新入会員承認について 他
第5回	2024年9月16日(月) 15:20～16:10	蔵王町ふるさと文化会館 第2会議室 佐々木、池田、齊藤、森井、 竹田、入川、上杉、梅村、 小森、鈴木、渡辺	夏季研修会反省

(欠席理事からは、事前に委任状およびご意見を提出していただいています)

## ● 執行部会記録（2024年4月～2024年9月）

執行部会では、さまざまな検討課題の優先順位など、理事会運営の方向性を決定しています。

	日時	
第1回	2024年6月3日（月） 18:30～20:30	Zoom
第2回	2024年7月8日（月） 19:30～21:00	Zoom
第3回	2024年7月29日（月） 19:00～20:00	Zoom

### 事務局からのお知らせ

- ◎第115回例会にて、アンケート実施予定です。ご協力をお願いいたします。
- ◎研究発表、出演者募集などの詳細は、学会通信、ホームページにてご案内しています。ご確認のうえ、奮ってご応募ください。
- ◎各種連絡を確実にするため、メールアドレスのご登録をお願いしています。  
未登録の方は、事務局までご一報ください。
- ◎ホームページには、学会通信カラー版を掲載しています。

\*\*\*\*\*

### 編集後記

第51号から、より読みやすい学会通信を、とレイアウト等を工夫してきました。（入川）  
社会全体でダイバーシティ（多様性）を推進する流れになってきました。当学会でも様々な背景、  
経歴、価値観を持った会員と理事が増えることで学会活動も充実していくのではないかと期待  
しています。（森井）

\*\*\*\*\*

日本声楽発声学会事務局 佐々木 徹

e-mail:info@jars-voice.org

Tel/Fax:03-6804-0626

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-14-4

振替口座：00170-0-119920

日本声楽発声学会 HP

<http://www.jars-voice.org/>



学会通信第52号

2024年（令和6年）11月発行

発行者：日本声楽発声学会

編集者：入川めぐみ 上杉清仁

齊藤祐 森井佳子